

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 33

エペソ人への手紙において（5） 賜物を与える方また神の武具の構成要素

聖書：エペソ 4:7-16. 6:10-20

- I. エペソ第4章7節から16節がわたしたちに提示しているのは、キリストが賜物を与える方であり、有機的なキリストのからだを内在的に建造しているということです。この建造は、キリストの賜物の度量にしたがって神聖な恵みを与えることと分与することによってなされます：
- A. キリストのからだのあらゆる肢体は、からだに対する必要不可欠な賜物です—— 7節. I コリント 12:14-22. ローマ 12:4-5：
1. キリストの賜物は、キリストの命と要素で構成されている人です。キリストの命と要素は、神聖な三一によってその人の中へと分与されます——参照、II コリント 1:15。
 2. 賜物のある人にはそれぞれ度量があります。そして神聖な恵みは、その度量にしたがってその人の中へと与えられ、分与されます——エペソ 4:16. 参照、ローマ 12:3。
- B. 有機的なキリストのからだを内在的に建造することは、かしらとしてのキリストが彼の昇天（復活を含む）において、賜物のある人たちをキリストのからだに与えることによってなされます。賜物のある人たちとは、使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者などであり、彼らは神聖な三一の分与によって構成されています——エペソ 4:8-12：
1. エペソ第 4 章 8 節は言います、「彼は高い所へ昇られた時、とりこにされていた者たちをとりことして引いて行き、人々に賜物を与えられた」：
 - a. 詩篇第 68 篇 18 節からの引用である「高い所」とは、シオンの山（15-16 節）を指しており、神が住まわれる第三の天を象徴します（列王上 8:30）。
 - b. 詩篇第 68 篇は、契約の箱が勝利を得た後（民 10:35）、神がその契約の箱の中でシオンの山に昇られたことを暗示しています。これは、キリストがどのようにして勝利を得て、勝ち誇って天に昇られたかを描いています。
 - c. 彼の宇宙的な行き来を通して、また彼の昇天において、キリストはサタンによってとりこにされていた者たちをとりことして引いて行き、彼らを彼のからだに対する賜物とされました——エペソ 4:8-11：
 - (1) 贖われた聖徒たちは、キリストの死と復活によって救われる前、サタンによってとりこにされていました——参照、ルカ 4:18。
 - (2) キリストは彼の昇天において、彼らを取りことして引いて行きました。すなわち、キリストは彼らをサタンの捕囚から救い出して、ご自身に帰されました——詩 68:18。
 - (3) キリストは彼の昇天において、彼らを取りことして征服された敵の行列の中で天に引いて行き、彼らを彼のからだに対する賜物とされました。

(4) 今やキリストは、彼の征服された敵に対する勝利を祝賀しており、また彼らをご自身のとりことして凱進行進の中で引いて行っています。これは、彼の行動においてであり、彼のからだを建造する務めのためです——Ⅱコリント 2:14。

2. キリストはわたしたちの内側で昇り、下り、わたしたちを捕らえ、征服すればするほど、ますますご自身をもってわたしたちを満たし、わたしたちを彼のからだに対する賜物として構成します——参照、エペソ 4:9-10。

C. 有機的なキリストのからだを内在的に建造することは、賜物のある人たちが神聖な分与の中で聖徒たちを成就することによってなされます。それは、すべての聖徒が新約の務めの働きを行なうことができるため、すなわちキリストのからだを建造することができるためです——11-12節：

1. 賜物のある人たちは、命の成長のための命の供給をもった命の木にしたがって聖徒たちを養うことによって、彼らを成就します——創 2:9. Ⅰコリント 3:2, 6。

2. 賜物のある人たちは、聖徒たちを成就して自分たちが行なっていることを行なわせ、彼らにキリストのからだを直接建造させます——マタイ 16:18. エペソ 4:11-12. 参照、Ⅰテモテ 1:16. 4:12。

3. このような成就の結果、わたしたちはその信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達します——エペソ 4:13. 参照、ヨハネ 17:23。

4. このような成就によって、わたしたちはもはや幼子ではなく、波にもてあそばれたり、教えのあらゆる風によって吹き回されたりすることがないようにになります。この教えのは、誤りのサタン的な体系をもくろむ人の悪巧みです——エペソ 4:14。

5. このような成就によって、キリストのからだのすべての肢体は、愛の中で建造する肢体となります。彼らはかしらの中へと成長し込み、かしらから出てくる機能を持ちます——15-16節。

Ⅱ. エペソ第6章10節から20節が啓示しているのは、キリストが神の武具の構成要素であるということです：

A. 神のすべての武具は、団体の戦士としてのキリストのからだ全体のためであって、からだのいかなる個人の肢体のためでもありません。わたしたちは個人としてではなく、からだの中で霊的戦いを戦わなければなりません——10-13節. ヤコブ 4:7. 参照、ローマ 13:12-14. 申 32:30。

B. エペソ第2章において、わたしたちはキリストと共に天上で座って、彼のすべての達成にあずかります（6節）。第4章と第5章において、わたしたちは地上において彼のからだの中で歩いて、神の永遠の定められた御旨を成就します（4:1, 17. 5:2, 8, 15）。それから第6章において、わたしたちは天上で彼の力の中で立ち、神の敵に敵対して戦います（11, 13-14節. 参照、Ⅰヨハネ 5:4, 18. ヨハネ 3:6後半）。

C. 「ですから立ちなさい。真理を腰に帯として締め」——エペソ 6:14前半：

1. ここの「真理」は、わたしたちの生活の実際としてのキリストにある神、すなわち、わたしたちの生活の中でわたしたちの実際と経験となる神を指しています。これは実はわたしたちによって生かし出されるキリストご自身です——4:15, 21, 24-25. ヨハネ 14:6. 8:31-32, 36。

2. わたしたちが締める真理は、実はわたしたちが経験するキリストです。パウロの生活はキリストの模範に同形化されていたので、彼にはすべての反対と逆境に直面する力がありました——エペソ 4:20. ピリピ 1:19-21 前半。
- D. 「義の胸当てを身に着け」——エペソ 6:14 後半. I コリント 1:30. エレミヤ 23:6 :
1. 義の胸当てとしてのキリストは、胸によって表徴されるわたしたちの良心を覆います。わたしたちを訴える者であるサタンに敵対する戦うとき、わたしたちは血によってきよめられた良心、とがめのない良心を必要とします——ヘブル 9:14, 10:22. 使徒 24:16。
 2. 「兄弟たちは、小羊の血のゆえに……彼に打ち勝った」(啓 12:11)。サタンの訴えに対するわたしたちの応答は、次のようであるべきです、「わたしが訴える者であるサタンに打ち勝つのは、わたしの完全さによってではなく、とがめのない良心によってでさえなく、小羊の血によってです。わたしは義の胸当てによって彼の訴えから保護されます」。
- E. 「平和の福音を確固とした土台として足にはきなさい」——エペソ 6:15 :
1. キリストは、わたしたちのために十字架上で、神と人の両方に対して平和をつくりました。そしてこの平和はわたしたちの福音となりました。平和の福音は、確固とした土台として、わたしたちが足にはく備えとして確立されました——2:13-17。
 2. わたしたちは平安の中に立つことによって霊的戦いを戦います。もしわたしたちがわたしたちと神との間、またわたしたちと他の人たちとの間の平安を失うなら、戦うための立場を失います——コロサイ 3:15。
- F. 「なおその上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、あなたがたはあの邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます」——エペソ 6:16. II コリント 4:13. ヘブル 12:2 :
1. 燃える火の投げやりは、サタンの誘惑、提案、疑い、疑問、虚偽、攻撃です。わたしたちは信仰の盾を取って、この燃える火の投げやりを消す必要があります。
 2. わたしたちは、征服され復活したわたしたちの意志と共に、わたしたちの信仰の霊を活用して、主の現れが悪魔の働きを破壊するためであることを信じる必要があります——I ヨハネ 3:8. マタイ 16:22-23. ルカ 4:39. マタイ 12:28. ルカ 10:17, 19。
 3. わたしたちは、わたしたちの信仰の霊を活用して、主の死がサタンを滅ぼしたことを信じる必要があります——ヘブル 2:14. 創 2:17. 3:15. ガラテヤ 2:20. ローマ 6:3-6. I コリント 15:54-58。
 4. わたしたちは、わたしたちの信仰の霊を活用して、主の復活がサタンを辱めたことを信じる必要があります——コロサイ 2:12-15, 20. 3:1. ヨハネ 14:30. ピリピ 3:10. イザヤ 61:10. ゼカリヤ 3:4-5。
 5. わたしたちは、わたしたちの信仰の霊を活用して、主の昇天がサタンの力を超越していることを信じる必要があります——エペソ 1:19-23. 2:6. 6:11, 13。
 6. わたしたちは神への信仰を持たなければなりません。神は実際に、生きており、臨在する、便利な方です——マルコ 11:22. 啓 1:18。
 7. わたしたちは神の心への信仰を持たなければなりません。わたしたちに対する神

の心は常に良いのです。彼にはわたしたちを罰し傷つける意図、あるいはわたしたちに損失を被らせる意図はありません——ローマ 8:28-39。

8. わたしたちは神の信実さへの信仰を持たなければなりません。神はうそをつくことができず、常にご自身の言葉に対して信実です——I コリント 1:9. I ヨハネ 1:9. テトス 1:2。
 9. わたしたちは神の能力への信仰を持たなければなりません——エペソ 3:20。
 10. わたしたちは神の言葉への信仰をもたなければなりません。神はご自身が語ったすべてのことを成就しなければなりません——参照、I テサロニケ 5:24. エペソ 6:17-18。
 11. わたしたちは神のみこころへの信仰を持たなければなりません——1:5, 9, 11。
 12. わたしたちは神の主権への信仰を持たなければなりません。神の主権の下で、わたしたちの間違いでさえ益となるように働きます——ローマ 9:19-29。
- G. 「救いのかぶとを受け取りなさい」——エペソ 6:17 前半：
1. 救いのかぶとは、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に対して、わたしたちの思い、知性を覆うためです。そのようなかぶと、そのようなおおいが神の救いです。
 2. サタンはわたしたちの思いの中に、脅迫、思い煩い、心配、人を弱くさせるその他の思想を注入します。神の救いは、これらすべてに抵抗してわたしたちが取るおおいです。そのような救いは、わたしたちが日常生活の中で経験する救いのキリストです——ヨハネ 16:33. ピリピ 1:19. ローマ 5:10. 10:12-13。
- H. 「その霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を」受け取りなさい——エペソ 6:17 後半：
1. 神の六つの武具の中で、その霊の剣は、敵を攻撃するために用いられる唯一のものであります。剣をもって、わたしたちは敵を引き裂きます。
 2. その霊また言葉としてのキリストは、敵を打ち破って殺すために、攻撃の武器としての剣でわたしたちを装備します。
 3. 「ロゴス」（聖書の恒常的な言葉）が、わたしたちにとって「レーマ」（現在の、即時的な、その霊の生ける語りかけ）となる時、この「レーマ」は敵を引き裂く剣となります——参照、ヨハネ 6:63。
- I. 「すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい」——エペソ 6:18:
1. 祈りは七番目の項目と考えられます。それは、わたしたちが他の項目を適用する手段であるからです。
 2. 祈りは神の武具としてのキリストを適用する唯一の方法です。実際的に武具をわたしたちに利用できるようにするのは、祈りです。